令和7年度

決算審査特別委員会

町政の１年を決算からチェックしました！

決算審査特別委員会では、前年度に町が使ったお金が「適正に使われたか」「どのような成果につながったか」などについて、町民の代表である議員が詳しく質疑・審査します。

令和７年度の決算について、９月 16 日、17 日、18 日の３日間にわたり、活発な質疑が交わされました。主な内容を要約して掲載します。

決算状況
▲町ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

中継動画
▲ YouTube



【総務費】移住・定住対策事業

Q マイホーム応援事業について、一定の成果はあると見ているが、今後の見通しや評価は。

A アンケート調査では、マイホーム応援事業補助金があったから幕別町を選んだと回答した割合が約６割となっている。若年層の社会増による人口構造の若返りにも、マイホーム応援事業により一定の成果が出ていると認識している。今後も必要な見直しを行いながら、事業を進めていく。



【民生費】緊急通報装置設置事業

Q 緊急通報装置の設置件数の減少理由や、携帯電話での対応可能な方式への見直しは。

A 緊急通報装置の設置件数は減少傾向にあり、その要因は、利用者の入院や死亡、固定電話解約、同居開始などである。現行方式は固定電話設置が条件で、携帯電話普及に伴う設置対応の問い合わせもいただいている。携帯電話は緊急ツールとして機能するものであり、町としてどういう対策が望ましいかを研究していく。

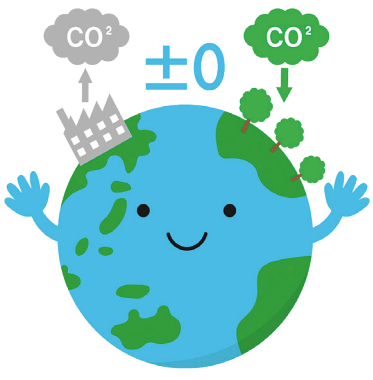


▲「緊急通報装置」

【衛生費】地球温暖化対策推進事業

Q ゼロカーボン推進事業の実績と 2030 年度の中間目標に対する達成状況や見通しは。

A 2013 年度を基準年とし、2030 年度に CO2 排出量 13 万 5,000 トン、削減率 46％を目標としている。2023 年度時点では森林吸収分も仮置きして 37％削減に達しており、順調に削減が進んでいる。ただし、削減が難しい分野もあり、その動向を注視しつつ、新たな事業の組み立てにより、全体の排出量削減につなげていく。



【農林業費】農業振興公社運営費補助事業

Q 令和７年の農家戸数や離農の状況は。また、農地が使われなくなる事態を防ぐための具体的な対策は。

A 令和７年の農協組合員戸数は 443 戸、令和８年は 430 戸である。令和７年の離農件数は 15 件で、その理由は高齢化が 12 件、経営不振が２件、死亡その他が１件である。町は、新規就農者向けのアカデミー事業での研修や、第三者継承の仕組みも活用し、農地の遊休化防止対策を取っていく。



【商工費】消費者保護推進事業

Q 高齢者が通信販売などで契約し、相談に至らない被害も多いのでは。啓発方法の現状と課題認識は。

A 現在は、広報紙に消費者被害防止ネットワークニュースを掲載し、事例紹介を行うほか、要請があれば出前講座で地域に出向き説明している。今後は消費者被害ネットワーク組織に加入している民生委員やケアマネージャーらと連携し、自ら情報を取得しにくい高齢者などへの啓発を強めていく。



【土木費】公園施設維持管理事業

Q 街区公園管理のあり方について、町内会に管理を委託しているが、実態をどの程度把握しているのか。

A 町内の街区公園は 62 か所あり、そのうちの 58 か所の管理を 39 の町内会に委託している。街区公園の管理について、アンケートを実施しており、町内会の約半数が現行どおり継続可能である一方、約４割は継続困難と回答。今後は継続的な維持管理ができるよう、都市公園ストック再編計画の中で、方向性を示しながら各町内会と個別に協議していきたい。

街区公園とは？

徒歩圏内（およそ半径 250 m以内）に住む住民が日常的に利用することを目的とした小規模な公園。



【教育費】ナウマン象記念館維持管理事業

Q ナウマン象記念館の入館者数は。ナウマン象忠類標本を用いた研究成果の報告について見通しは。

A ナウマン象記念館の入館者数は昨年度が 13,415 人であり、今年度は途中経過ではあるが、前年同時期の入館者数を上回っている。ナウマン象忠類標本の研究は進行中であり、研究成果が得られれば学会発表後に公表予定である。地域の子どもたちに研究成果を伝える行事を展開し、郷土資源に誇りを持ってもらえるような事業を展開していきたい。



▲忠類ナウマン象記念館